



「幸せを見つけたと思ったら、いくら家の外を探してもダメなの。それは家の中にあるの。」

「オズの魔法使い」の中で、少女ドロシーはこう言います。

家庭とは、人生で最初に出会う共同生活の場です。自分とは異なった人とどうやって仲良く暮らしていくかを学ぶのが家庭です。兄弟げんかをしたり、争ったりすることもあつてしょう。親子でも言い争うこともあるでしょう。けれども、家庭生活は、互いの違いを尊重し、受け入れ、そこから学ぶことによつて、より豊かなものになるのです。子どもたちは、あつという間に成長してしまいます。子どもたちと過ごせる貴重な日々を、言葉を交わしながら、できるだけ長く一緒に過ごしてみましよう。

私たちは、子どもが悪いことをしたとき、まず怒り、そして、子どもを悪いと決めつけてしまいがちです。子どもは、自分が悪いことをしたとは知らなかつたのかもしれないのです。どう

してそうだったのか、子どもの話をよく聞きましょう。

「どうすれば良かったと思う?」子どもは、いろいろ考えて答えます。

「その方が良かったわね。」

「こんどからは、こうしてね。」子どもを責めて、必要以上に罪悪感を植え付けるよりも、ずっと効果的なのは、言うまでもありません。子どもは、自分で考え出したことにはやる気を見せるものですから。

子どもは、成長とともに少しずつ自信をつけていきます。「自分でできるよ」と言う時、自信の芽は伸び始めているのです。そんな時、子どもの試行錯誤を見守り、支え続けてください。もちろん目標を高く持てば、失敗もあります。しかし、そんな時こそ、自分を信じ、がんばらなくてはなりません。

「どうすればいいと思う。」

「そうか、偉いぞ。」

「そうだよ。それでいいんだよ。」自分を信じていることができれば、自分で道を切り拓くことができるようになります。

同じように人を信じていることができれば、温かい家庭を築くことができるようになるのではないのでしょうか。

不満やイライラや怒りという感情をどんなふうに表示したらいいのでしょうか。「考えが違ったからけんかになつちやつた。でも、話し合つてこうしよう」と決めたよ。」共同生活での歩み寄りとお話し合ひは、家族全員のためにも大切なことです。

伝言板

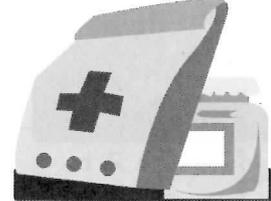
富士・東部保健福祉事務所(富士・東部保健所)

難病(特定疾患)患者への医療費助成について

原因が不明で治療方法が確立していない病気を「難病」といいます。

難病のうち、治療が極めて難しく、症状が長期化することにより、経済面や介護などに大きな負担となる疾病45疾患を国が「特定疾患」として指定しています。

特定疾患と診断され、「特定疾患医療受給者証」の交付が受けられると、治療にかかった費用の一部が助成されます。



医療費の助成は、病気の重症度、所得の状況などにより決定されます。初めての方は主治医にご相談のうえ、保健所までご連絡ください。申請用紙は、保健所で配布しています。

また、療養生活に関する相談も行っています。お気軽にお尋ねください。詳しくは、お問い合わせいただくか、県富士・東部保健福祉事務所のホームページ(難病支援)をご覧ください。

問合せ 健康支援課
☎0555(24)9034

麻疹の予防接種について

麻疹は、インフルエンザと同じく空気感染や飛沫感染(せき、くしゃみ)、接触感染(ウイルスの付いた物、手洗いの不十分な手指など)によつて人から人へうつります。その感染力は大変強く、その症状は、ウイルス感染後10日〜12日間の潜伏期間のち、38℃以上の発熱(耳後部や頸部から始まります)、咳などが現れ、発疹が全身に広がり続けます。

麻疹は、高熱が数日続くため体力が消耗し、合併症(肺炎、脳炎、中耳炎)や他の感染症にかかりやすく、体力などの回復にはしばらく時間がかかる重い病気といえます。また、強い感染力のためマスクでの予防は難しく、予防手段としてはワクチンを接種して免疫を得ることでです。

予防接種を推奨する時期は、満1才の誕生日ごろ(第一期)、小学校入学前(第二期)です。また、追加接種では中学校1年、高校3年相当(第三期)、第四期)があり、平成24年度までは公費助成対象です。夏休みなどの期間を利用して接種をお勧めします。

問合せ 地域保健課
☎0555(24)9035